

増収への取り組み

松本・経理課会計係○柴田 章
河野清司

要 旨

国有林野事業は、森林に対する多様な国民的要請が高まっているなかで極めて厳しい経営状況に直面しており、自主財源を確保するための収入の確保がもっとも大きな課題となっている。

当署においても、北アルプス乗鞍、上高地、中信高原美ヶ原等を擁し、公益面でのウエイトが極めて高い反面、素材販売等直営部門における収入は少なく、毎年多額の赤字を計上している実態から、次長をキャップとする増収プロジェクトチームを編成し、署員全体の意識改革を図るなかで積極的に取り組んできた。

はじめに

プロジェクトチームを立木、素材、木工品、副産物の4部会とし、それに事務局をおいて編成した。スタッフとしては、立木、副産物の両部会長には経営課長を、素材部会長には事業課長を、木工品部会長には庶務課長をそれぞれ当て、事務局には経理課長が当たり、それぞれの部門に精通した部会員を配し部会を構成した。

表-1 増収プロジェクトチーム

議長	部会名	メンバー	取 り 組 み
次 長	立木部会	部会長 経営課長 宮沢(弘)、山田、木下、宮出、齊藤 和田、大島、榎谷、小沢	増収につながる収穫箇所、立木処分 隣接地等における有利販売材等の発 掘、売払時期の検討
	素材部会	部会長 事業課長 原田(仲)、蒲田、石田、上田、朝日 岩田、小林(繁)、福沢、吉村	計画生産量の確保、有利採材及び再 採材等による付加価値の向上、隣接 地等への販路の開拓、定価販売の促 進、需要期における公売回数増
	木工品部会	部会長 庶務課長 副 百瀬 邦忠 石井、白木、林(勲)、高宮、三浦(四) 渡辺、日見、牛丸、西村(富)、原田 (好)、小倉、中村、中島、百瀬(昭) 小林、若林	木工品の開発、製作、販路の開拓
	副産物部会	部会長 経営課長 宮沢(弘)、山田、遠山、三浦(末)、 巾、小島、郷原、佐々木(克)、堀川 宮沢(広)、金沢、横山(千)	新規副産物の発掘、開発
	事務局	責任者 経理課長 柴田、河野	会議のとりまとめ促進

I 取 り 組 み

部会ごとの取り組みとして、立木部会においては、増収につながる収穫箇所の検討、立木処分地に隣接した箇所等における有利販売材の発掘、有利販売に結びつく売払時期の検討等を、素材部会においては、計画生産量の確保、有利採材及び再採材による付加価値の向上、隣接県等への販路の開拓、ヒノキ小丸太については農家、造園業者、一般市民等のなかに定価販売が浸透してきている現状を踏まえ、定価販売の促進、需要に対応しての公売回数の増等を、木工品部会においては、木工品の開発、製作、販路の開拓等を、副産物部会においては、新規副産物の発掘、開発等を柱としてそれぞれ取り組んできた。

表-2 昭和62年度収入進行状況

(単位 千円)

区 分	計 画 別	目 標 額 (年初計画)	変 更 計 画			増(減)	%
			1月末実行	2・3月予定	計		
業 務 収 入	立 木 部 会 (立木竹売払代)	(10,200) 49,198	82,949	7,468	90,417	41,219	184
	素 材 部 会 (製品売払代)	(3,985) 160,269	158,048	34,088	192,136	31,867	120
	木 工 品 部 会 (製品売払代)	1,000	1,359	200	1,559	559	156
	副 産 物 部 会 (雑 収)	14,774	8,338	5,295	13,683	(1,091)	93
官 行 造 林 収 入		(1,600) 23,801	30,946		30,946	7,145	130
雑 収 入		25,000	26,730	2,159	28,889	3,889	116
計		274,042	308,420	49,210	357,630	83,588	131

() 内は数量

部会ごとの収入目標(表-2)については、年初における予定総括表の販売額とし、部会ごとに目標額を設定した。

II 実 行 結 果

1月末の実行額に今後の収入見込みを加えた年間収入予定額は、立木部会においてはプロジェクトチームをフルに活用し、昨年春以来の材価の高騰にあわせ、適期に販売したことが目標額に対し184%という好結果が得られたものである。

素材部会においては、当署は総体的に材質が悪く、昨年春以来の材価高騰の波にも乗れなかったにもかかわらず、計画生産量の確保とチームの活用により120%という結果が得られた。

木工品部会においては、前年度松本市において開催され、多額の売上げがあった「森林の市」のようなイベントが今年度は見込めなかったため、前年度の売上げ高より目標額を低く設定したところであるが、1月末で既に前年度を上回る収入があった。なお木工品については、当署の重点事項であるので、後段IIIにおいて詳細に説明する。

このように各部会とも目標額を達成している中で、副産物部会のみが目標額に達していない大きな要因は、川砂利の販売量が少なかったことによるが、これは松本測候所における昨年4月から10

月までの降水量をみると、平年値 838 % に対し、62年は 436 % と平年値の 52% と少なかったため、河川への土砂の流出が少なく、販売量が減少したことによる。

目標外を含めた署のトータルでは、年初計画に対し 131 % の増収となる見込みである。

■ 木工品の製作販売

収入の大宗を占める立木、素材販売については量的に限界があるため、それ以外の収入対策として、昭和60年度から一署一品一工夫運動の一環として端材、根株等の資源を有効活用した木工品等の製作販売に着手し、好結果を得ているので、木工品部会の具体的取り組みと実行結果について述べる。

1. 取 り 組 み

- (1) 現場職員を主体に飾りものになるような珍木、奇木に対する情報の提供と収集につとめる。
- (2) 庁内職員は、それぞれ仕事の余裕をみて資材の運搬、原材料の確保、皮むき、研磨、塗装などアイデアと材料の加工作業をする。
これらの作業は、手なれない作業であり、怪我をしては元も子もないので、十分安全に留意し、次の事項を徹底し作業を行なった。
- (3) 重い物を持つ時は腰を痛めないように。
- (4) 電動工具や刃物を使う時など正しい姿勢と動作ですり傷、打撲などないように。
- (5) 鋸くずなど目に入らないように。
- (6) 平常業務に支障をきたさないように。

これらに留意しながら職員が知慮と汗とホコリにまみれながら製作し、署の玄関をショーウィンドーとし、一人ひとりが広報マンとなり、前だれ精神で取り組んできた。

2. 実 行 結 果

売上高についてみると、60年度はおよそ15万円であったが、61年度は一挙に136万円余と大幅に売上げを伸ばした。

表-3 昭和61年度木工品等販売結果 (単位千円)

品目等 即売箇所	置物	花台	腰掛	小丸太	コースター	名 札	すりこぎ	その他	〔 〕 % 金 額
	(数量) 金額	() "	() "	() "	() "	() "	() "	() "	
森 林 の 市 (松本市)	(46) 485	(105) 181	(56) 78			(19) 4	(18) 4	(29) 32	[57] 784
信州ふるさと自慢 大集合(長野市)						(9) 2			2
緑化木即売時 (松本市)	(2) 36	(101) 51	(63) 33	(30) 6			(16) 8		} 134
高品質材即売時 (貯木場)	(4) 43	(23) 46	(5) 13			(5) 1			
署自主販売	(13) 166	(78) 62	(45) 48	(211) 55	(14) 3	(31) 6	(1) 1	(1) 1	} 342
計〔 〕%	(65) [54] 730	(307) [25] 340	(169) [13] 172	(241) [4] 61	(14) 3	(64) [1] 13	(35) [1] 13	(30) [2] 33	

61年度の売上高を分析してみると、イベント別では松本市において開催された「森林の市」における売上げが第1位であるが、署における売上げも馬鹿にならない数字となっている。

品目別売上高をみると、置物がトップで次に花台となっているが、花台は307個販売しても34万円というように、置物を除く他の製品は、手のかかるわりには増収に結びつかなかった。なかでもイチイを輪切りにしたり、塗装をした花台等は予想外の不人気であった。

売上高トップの置物は、原材料の確保と加工に大変苦労があるものの、ふたつとない希少価値のある商品で人気も高く、かつ松本市という大きな市場をかかえ需要もあり、高価に売れた。

これら61年度の実行結果を反省し、62年度は置物に重点をおいて製作することにした。

表-4 昭和62年度(1月末現在)木工品等販売結果 (単位千円)

品目等 即売箇所	置物	花台	腰掛	小丸太	コースター	名札	すりこぎ	その他	〔 〕% 金額
	(数量) 金額	(") ")	(") ")	(") ")	(") ")	(") ")	(") ")	(") ")	
森林の市 (東京)		(3) 6			(10) 3				} [2] 16
夏期販売 (軽井沢)		(4) 13			(9) 3				
森林の市 (上田市)	(9) 199	(6) 19	(2) 6		(42) 8				[17] 232
信州ふるさと自慢 大集合(長野市)	(17) 152	(7) 9			(7) 2			(5) 6	[12] 169
緑化木即売時 (松本市)	(10) 83	(31) 91	(150) 82	(57) 15	(34) 9		(3) 2	(9) 22	} 304 [69] 66
高品質材公売時 (貯木場)	(3) 35	(15) 26	(2) 5						
署自主販売	(34) 382	(25) 36	(48) 33	(218) 89	(21) 4	(36) 7	(22) 6	(8) 6	} 563 [100] 1,359
計〔 〕%	(73) [63] 851	(91) [15] 200	(202) [9] 126	(275) [8] 104	(123) [2] 29	(36) [1] 7	(25) [] 8	(22) [2] 34	

表-4は62年度(1月末)の実行結果であるが、売上高を分析してみると、イベント別では署における販売が断然トップで売上げの69%、ついで上田市における「森林の市」、長野市での「信州ふるさと自慢大集合」の順となっている。

また品目別では、前年度までの反省の上にならって重点品目として製作した置物がトップで、売上高の63%を占めている。

このように松本市における大きなイベントがなかったにもかかわらず、前年度を上回る大きな成果を上げ得たのは、職員の努力により付加価値の高い商品を製作したことはもちろんであるが、62年8月13日付け信毎で「木のオブジェはいかが」、8月22日付け中日新聞では「廃材を活用、財テクだ」という見出しでマスコミを通じ、それぞれ報道されたほか、口コミ等で人気が高まり一般市民も来署するようになったほか、上田市において開催された「森林の市」においては、営林局全体の売上高73万円のうち当署の製品が23万円で全体の32%、長野市において開催された

長野中白

長野	14.20
山形	14.20
福島	14.20
茨城	14.20
栃木	14.20
群馬	14.20
埼玉	14.20
千葉	14.20
東京	14.20
神奈川	14.20
新潟	14.20
富山	14.20
石川	14.20
福井	14.20
岐阜	14.20
愛知	14.20
三重	14.20
滋賀	14.20
京都	14.20
大阪	14.20
和歌山	14.20
奈良	14.20
徳島	14.20
香川	14.20
高松	14.20
愛媛	14.20
高知	14.20
福岡	14.20
佐賀	14.20
大分	14.20
熊本	14.20
鹿児島	14.20
沖縄	14.20

松本造林協会の 廃材を活用 助けてください!!



協会の作り出した新製品、使
用を始める一歩、松本造林協会

旅館前(人気)

根株や曲がり木などで

置き物、花台作る

樹木の根株や曲がり木など、林業の廃材を有効活用して、置き物や花台などを作ることができます。これは、松本造林協会の取り組みです。根株や曲がり木は、自然の姿を活かして、様々な用途に利用されています。例えば、花台や置き物として、庭園や公園などに設置することができます。また、根株は、木彫りや彫刻などの芸術作品にも利用されています。この取り組みは、環境保護と資源の有効活用を促進しています。

木の“オブジェ”にかが

——松本造林協会が自主製作

木の根株や曲がり木など、林業の廃材を有効活用して、置き物や花台などを作ることができます。これは、松本造林協会の取り組みです。根株や曲がり木は、自然の姿を活かして、様々な用途に利用されています。例えば、花台や置き物として、庭園や公園などに設置することができます。また、根株は、木彫りや彫刻などの芸術作品にも利用されています。この取り組みは、環境保護と資源の有効活用を促進しています。

長野県産材の活用を推進する会

根株など利用 自然な姿人気

木の根株や曲がり木など、林業の廃材を有効活用して、置き物や花台などを作ることができます。これは、松本造林協会の取り組みです。根株や曲がり木は、自然の姿を活かして、様々な用途に利用されています。例えば、花台や置き物として、庭園や公園などに設置することができます。また、根株は、木彫りや彫刻などの芸術作品にも利用されています。この取り組みは、環境保護と資源の有効活用を促進しています。



木の根株や曲がり木など、林業の廃材を有効活用して、置き物や花台などを作ることができます。これは、松本造林協会の取り組みです。根株や曲がり木は、自然の姿を活かして、様々な用途に利用されています。例えば、花台や置き物として、庭園や公園などに設置することができます。また、根株は、木彫りや彫刻などの芸術作品にも利用されています。この取り組みは、環境保護と資源の有効活用を促進しています。

販売ニュース

昭和62年11月5日
長野県林業：利用課

もり 森林の市

とき 62・10・3~4 ところ 上田市

「緑の森・豊かな未来」をテーマに長野県・営林局・上田市などの主催で「県産材やその他の林産物」の需要拡大を図ろうと、上田公園で開催された。

営林局若コーナーでは上田営林所など16営林所が作った、椅子立て・すりこぎ・花台などの展示即売を行った。人気は上々で下記通りの結果となった。

品名	出品署名	数量	金額円
椅子立	上田、伊那、王滝	35	7450
旗の旗掛	飯山、伊那	6	8000
緞丸太	長野	2	300
三角木馬	坂下	1	1000
壁掛	上田、上松	7	5600
置物	上田、松本、伊那、上松	28	29500
丸大椅子	白田、松本、上松	6	18700
すりこぎ	上田、岩村田、白田、駒ヶ根、坂下	81	31700
アクセスリール掛け	上田、岩村田、野尻	15	8800
アカスリ	岩村田	30	3000
杖	白田、上松	26	10300
花台	上田、白田、松本、伊那、飯山、福島、王滝、上松、坂下	198	164900
はんこ立	白田	10	2600
コースター	松本、福島、王滝	159	20100
木製煙草	伊那	12	50500
表札	伊那	3	2100

いま、木に本気 木はくらしの詩

品名	出品署名	数量	金額円
置物台	飯山、南木曾	58	15100
木製ハガキ	上松	5	1500
水書	白田、駒ヶ根、福島、上松	78	18300
屏風	上田	47	29600
足ふみ箱	王滝	2	600
招徠駒	上田	15	13100
旗示版	上田	1	350
計	飯山、長野、上松、岩村田、白田、松本、伊那、駒ヶ根、飯山、南木曾、王滝、上松、南木曾、坂下	825	729500

一番一品運動の成果です。各署の皆さん有難うございました。 内松本分 231,900
2000/1位

販売ニュース /

『87 信州ふるさと自慢大集合』

とき 62. 10. 16~18日 ところ 長野市：城山公園

下記は各署から出品された木工品を提示即売した結果です。

品名	出品署名	数量	金額円
椅子立	上田、白田	20	5400
旗の旗掛	飯山、伊那、飯山	13	7800
緞丸太	長野	1	300
三角木馬	坂下	1	800
壁掛	上田、上松	11	6700
置物	上田、白田、松本	22	169400
丸大椅子	白田	2	15000
すりこぎ	岩村田、白田、駒ヶ根、南木曾、坂下	125	66200
アクセスリール掛け	岩村田	3	2800
杖	白田、上松	44	19300
花台	白田、松本、伊那、飯山、飯山、福島、王滝、上松、坂下	92	68000
はんこ立	白田	2	600
コースター	松本、王滝	23	10300
木製煙草	伊那	3	11000
表札	伊那、上松	6	4500

いま、木に本気 木はくらしの詩

品名	出品署名	数量	金額円
置物台	伊那	3	4200
木製ハガキ	上松	24	7200
水書	白田、駒ヶ根、福島、上松	151	33600
ついで立	伊那	1	22000
足ふみ箱	王滝	11	3300
招徠駒	上田	6	4400
旗示版	上田	2	800
文鎮	上松	17	20300
香盤 黒村	上松	3	35000
飾り物	南木曾	1	500
冬花わらび	飯山	33	20900
ホホ木理版	南木曾	4	1000
まな板	松本	4	5500
旗掛	奈良井、上松、南木曾	13	23900
花器	南木曾	2	1300
計	飯山、長野、上松、岩村田、白田、松本、伊那、駒ヶ根、飯山、奈良井、飯山、福島、王滝、上松、南木曾、坂下	643	572000

各署のご努力に感謝します。さらに今後のための創意工夫をお願いします。 内松本分 168,600
2000/1位

もりもりもくもく ウッティライフ

販売ニュース

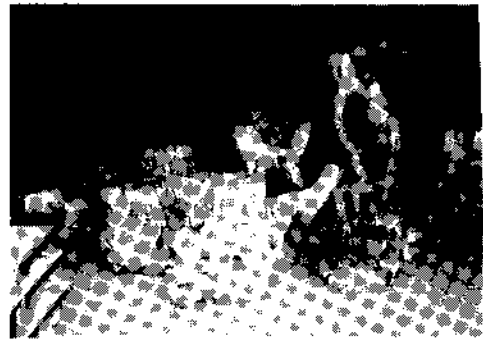
「信州ふるさと自慢大集合」における売上高57万円のうち当署の製品が17万円で売上高の30%と当署の製品が著別売上高においてそれぞれトップを占めていることから判るように各地でも人気品であった。

ちなみに昭和61年度における売上高136万円は当署の庁舎、9担当区事務所、4事務所における1年間の電話料総額に匹敵する額であり、職員の努力した成果は大きい。

これら木工品の製作販売については、増収対策はむろん「木のぬくもり」、「木の良さ」を多くの人々に知ってもらったことができたことにおいても大きな成果であった。



(写一) 製作に取り組んでいるところ



(写二) 剥皮した未完成品



(写三) 玄関をショーウィンドーとして展示



(写-4) 完成品の一部

3 今後における問題点

これまでの実行結果に基づき、今後における問題点をまとめてみると、

- (1) 適木が少なく、量的生産が困難視される。
- (2) 樹液流動期には剥皮が容易で、仕上がりが美しく、能率もよい反面、木目割れを生じ、商品価値が低下するので、保管場所、保管方法に留意する必要がある。
- (3) 事業の最盛期には労働力の確保が困難である。

これらにしばられるのではないかとと思われる。

おわりに

収入の確保を業務方針の最重点項目として掲げ、増収推進のためのプロジェクトチームをフルに活用するとともに、活力ある職場づくりの一環として、一畝一品一工夫運動に全署一丸となって取り組んできた結果、所期の目的を達成することができ、職員のなかにも自信が生まれ、職場全体の活性化にもつながった。